



学校だより

令和7年1月7日

No. 10 1月号

横浜市立篠原西小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>

新しい一年に

校長 小澤 孝之

今回の年末年始は国内では、大きな事故を報道されることがなく、穏やかな一年の始まりとなりました。昨年は能登での大きな地震から始まり、南海トラフ地震の臨時情報もあり、災害に対する警戒と準備の必要性を感じる一年でした。被災され、今も不自由な生活を送られている方々、また、そのご家族に対して改めてお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興を願ってやみません。

今年は十二支で巳年にあたります。巳年は脱皮する蛇のイメージから復活や再生を意味し、新しいことが始まる年になることが多いそうです。本校でも、よりよく始められるよう職員一同頑張っていきたいと思います。これまで同様、ご支援・ご協力をお願いいたします。

さて、この年末年始、多くのスポーツ大会が開催されましたが、その中に箱根駅伝がありました。東京の大手町と箱根の芦ノ湖を往復するこの駅伝は今年101回目を迎える伝統ある大会です。往路・復路5区間ずつ10人の選手がそれぞれの思いを胸に大学伝統のたすきをつないでいきます。私は箱根駅伝にここ数年、応援に行っています。20km以上の長距離を走るにもかかわらず、スピードはとても速く、目の前をあっという間に走り抜けていきます。走っている足音・一定のリズムで行われている息づかい・跳ねるように走る躍動感など、実際に見ないと感じる事ができないものです。毎年、様々なドラマが繰り広げられ、見ている人に感動を与えてくれます。今回も予選会から1秒を争う場面や人と人のつながりを感じる場面など様々な場面が見られました。

今年の大会は4つの区間で大会新記録が生まれるなど、近年、高速化が進んだといわれています。それは上位のチームだけでなく、参加したどのチームにも言えることだそうです。今年の好記録誕生の背景には、指導法の変化があるそうです。優勝した大学の監督が話していましたが、それぞれの大学にメソッド(目的を達成するための方法)があり、それらを切磋琢磨していくことでさらに高まっていくということです。そして、その監督は、「今までのように自分が言わなくても、選手たちが自分で考え、取り組んでいくようになってきた。」とも話していました。委ねる場面をつくることは、主体的に取り組むことができるようになるために必要な要素になっています。私たちも、子どもたちに対してきちんと指導すべきところは指導するとともに、子どもたちに委ねるところをつくり、見守り、支援していくことでさらなる成長を促していきたいと思います。

本年もどうぞ、よろしくお願いいたします。